

異文化コラボレーション論文特集の発行にあたって



異文化コラボレーション論文特集編集委員会

委員長 片桐 恭弘

異文化コラボレーション研究は、インターネットの浸透、情報流通のグローバル化に伴って急速に進む多言語・多文化環境における協調の実態・問題点の把握とICT技術による協調支援を目指しています。言語や文化的な差異に焦点を当てたコラボレーションのモデル、技術、応用、評価手法に関して、自然言語処理、社会心理学、認知科学、サービス科学といった様々な研究分野を巻き込んだ刺激的な研究が分野横断的に活発に進められています。2010年には異文化コラボレーション国際会議(ICIC)が開催されました。本誌における「異文化コラボレーション論文特集」も今回で3回目となりました。

今回採録された論文は、実環境での利用を想定したテキストあるいは音声翻訳システムの評価あるいは改善手法の提案、既に広く利用されているネット上の知識リソース多言語化支援など、異文化コラボレ

ーション研究の中でも特に異言語をつなぐ実システムを対象とした研究が中心となっています。揺籃期から成熟期へと向かいつつある異文化コラボレーション研究の現状を概観するのにより特集となったと考えています。

「異文化」コラボレーションは必ずしも「異言語」コラボレーションに限定されるわけではありません。医療、看護・介護、教育、災害復興、観光など様々な場面で文化的背景の異なる人々間の協調をどのように支援するかは極めて現実的で重要な問題となっています。異文化コラボレーション研究のいっそうの拡大と活発化を期待しています。

かたぎり やすひろ
片桐 恭弘(正員) 1981年3月東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻了。工博。NTT基礎研究所、ATRメディア情報科学研究科を経て現在公立ほこだて未来大学教授。異文化コラボレーション研究会主査。

異文化コラボレーション論文特集編集委員会

委員長	片桐 恭弘
副委員長	吉野 孝
幹事	緒方 広明・山下 直美
委員	中西 英之・葛岡 英明・北村 泰彦